

拠出金名：世界エイズ・結核・マラリア対策基金拠出金

分担金・義務的拠出金の有無		有(所管官庁)		無	
当該機関等に対する分担金を含めた平成19年度の拠出総額				21,326,017千円	
国際機関等名	世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (英文名称・略称) The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria				
種別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	外務省国際協力局専門機関課				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成19年度	21,326,017	183,845		1米ドル = 116円	100
平成18年度	20,646,755	186,007		1米ドル = 111円	100
平成17年度	15,937,460	148,948		1米ドル = 107円	100
当該拠出金の目的・用途等	三大感染症の感染・疾病・死亡の削減に持続可能かつ重要な貢献。				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2007年のもの)				国際機関等の財政 (2007年度決算)(千米ドル)	
	国名	金額 (千米ドル)	拠出率(注) (%)	当該年度の収入	3,153,383
1位	米国	531,008	20.6	当該年度の支出	2,713,271
2位	フランス	424,941	16.5	次年度への繰越	440,112
3位	英国	200,890	7.8	会計検査機関名	
4位	日本	186,007	7.2	Ernst & Young	
5位	イタリア	180,375	7.0		
当該機関等に対する我が国としての評価 (当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
世界基金は2000年の九州・沖縄サミットを契機として設立された日本外交の成果であり、我が国は「生みの親」である主要ドナーとして世界基金の運営に主体的に関与してきた。世界基金は設立から6年半で136か国の527事業に対し11.4億ドルを上限とする資金供与を承認し、これらの事業によりこれまでに250万人以上の命が救われたと推定されている。このように世界基金は短期間で効率的かつ効果的な成果を挙げているが、2015年までに感染症関連ミレニアム開発目標を達成するためには、ドナー国として世界基金の活動を一層支援する必要がある。					
合理化・機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価					
世界基金の収入も支出も毎年急増している中で、理事会は事務運営費の伸びを極力抑えている(2007年の事務運営費は年間総支出額の4.2%であり、残りの95.8%は事業支援費)。合理化・機能強化のため、2007年に初めて策定された中期戦略に基づく改革が行われている。これと並行して世界基金「5か年評価」プロセスが進行しており、報告書第1部にに基づき、現在事務局改編が行われている。更に、理事会は事業実績評価や教訓に基づく制度面の改善を毎回行い、事業申請要領も毎年改善・簡素化されている。					
邦人職員数 うち幹部以上	1人 うち0人	当該機関全体の職員数 及び邦人職員が占める率	340人 0.3%		
邦人職員が占めている幹部ポスト					
ポストの名称	職員氏名	備考			
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
(1)あらゆる機会を捉えて世界基金事務局幹部に対し邦人職員の採用及び登用を働きかけている。 (2)国際保健分野に関係する日本国内の官庁、研究機関・大学に世界基金につき紹介し、適当な候補者の発掘を働きかけている。					

(注)我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年となっている。